

リスクモンスター株式会社

事例紹介

与信管理 ASP サービスを提供する会員向けサイトに SVF 採用 帳票基盤の実現で業務効率化と紙コスト削減を両立

Interview



写真左から
開発ソリューション部 部長
奥山 昌幸 氏

開発ソリューション部 課長
吉川 英伸 氏

さらなる顧客満足度向上に向け全社採用も計画

グループ 3 社共通の帳票基盤実現にも SVF に期待

約 3,800 の法人会員向けに 与信管理支援サービスを ASP 展開

本格的な与信管理支援サービスをアウトソーシングにより提供することを目的に 2000 年 9 月に設立されたリスクモンスター株式会社。現在、約 3,800 の法人会員向けに与信管理支援サービスを提供している。グループ全体では、約 8,000 の会員企業に与信管理を中心としたさまざまなサービスを展開。常にビジネス領域の拡大を目指している。

たとえば、主力の与信管理 ASP サービスで培った経験やノウハウ、パートナー企業とのアライアンスを生かし、営業支援、人事／総務支援、デジタルデータ化サービスなど、BPO（ビジネス・プロセス・アウトソーシング）事業を展開。昨年からは安価で良質な IT サービスを中小企業に提供するビジネスポータル事業もスタートした。

同社は、さらなる顧客満足度の向上を目的に、与信管理支援サービスを提供するための中核となる ASP（アプリケーション・サービス・プロバイダー）システム「RM2 Navi System」を全面的に 2006 年 5 月に刷新。帳票基盤の中核システムとして、Super Visual Formade (SVF) を採用した。

法人会員の要望により PDF で情報提供 オープンソース化もポイントに

リスクモンスターでは 2000 年 12 月に、RM2 Navi System と呼ばれる ASP システムをカットオーバーし、与信管理支援サービスを展開してきた。このシステムでは、190 万社の与信情報が登録されたデータベースを活用することで約 3,800 の法人会員が安心して取引先とビジネス関係を構築できるさまざまなサービスが提供されている。

現在、RM2 Navi System では、「e-与信ナビ」と「e-管理ファイル」の大きく 2 つの与信管理支援サ

ービスが提供されている。

「e-与信ナビ」は、法人会員が新規にビジネスをスタートする場合や取引の見直し時に、取引相手の会社の信用力がどの程度あるかを照会することが可能なサービス。同社独自に算出した倒産確率に基づく A～F の 6 段階の格付け情報で企業の信用力を評価できる。

一方、「e-管理ファイル」は、取引がスタートした後に、信用変化を始めとして取引銀行の変更や社長の交代など、取引相手の会社に変化があった場合にメールでアラート情報を受け取ることができるサービス。効果的かつ継続的な取引先管理を行うことが可能になる。

開発ソリューション部 部長である奥山昌幸氏は、「利用者から、与信管理に関するワークフローで社内申請するために「プレイバックモンスター スプレッドシート」（企業データ詳細過去履歴一覧表＝信用調書の簡易版）を帳票出力したいという要望が多く、帳票システム実現に向けた検討が開始された」と話す。

また、RM2 Navi System は、商用パッケージソフトを使用して構築されていたが、将来性も考えてオープンソースをベースとしたシステムに刷新することが計画されていた。そこで、オープンソースに対応できる帳票システム実現も課題のひとつだった。

PDF 対応できたのは SVF だけ 開発生産性も高評価で採用に

RM2 Navi System は、顧客が利用するサービス系のシステム「会員向けサイト（サービスシステム）」と社内の担当者が利用する管理系のシステム「管理ツール」の 2 つで構成されている。サービスシステムは会員企業に情報を提供する仕組みで、管理ツールは会員管理や課金システム、利用サービス区分毎に違う提供する情報の選別などに利用されている。

Company Profile

リスクモンスター株式会社

設立：2000 年 9 月

所在地：東京都千代田区

事業内容：与信管理 ASP サービス事業および関連コンサルティング事業、営業支援、人事／総務系サービス、デジタルデータ化サービスなどの各種 BPO 事業を展開。

URL：http://www.riskmonster.co.jp/



導入背景

- PDF 出力案件の増加
- 大量印刷処理のパフォーマンス
- 事務作業の軽減と効率化

導入ポイント

- 容易な GUI 開発
- PDF 出力
- オープンソース対応

導入効果

- GUI による開発生産性向上
- 紙資源と保管コスト削減
- 業務効率の向上

この2つのシステムが共有する帳票基盤としてSVFが採用されている。SVFを組み込んだRM2 Navi Systemは、前述のとおり2000年12月にカットオーバーした。また、2006年5月には、サービスシステム部分をオープンソースをベースとしたシステムに全面リニューアル。管理ツール部分についても2008年4月にオープンソース化されている。

システム開発は、外部の開発会社に委託。SVF for Web/PDF Java Edition (※) を使用して中核となるシステムが構築されている。ちなみに「RM2」という名称は、「リスクモンスター」と「リスクマネジメント」の2つの意味で命名されたという。

SVFが採用された理由を奥山氏は、「当時データをPDFに変換できる帳票作成ツールが無く、SVFがいち早くPDF帳票に取り組んでいたことが採用の決め手になった」と話している。

業務効率の向上はもちろん 紙資源と保管コストの削減も

SVFを導入した効果を開発ソリューション部 課長、吉川英伸氏は、「帳票数としては5種類程度だが、1つのレポートにさまざまな書式やグラフ、表などがフォーマットされるので非常に複雑な帳票開発が必要だった。しかしSVFは、GUIが非常に使いやすいので、複雑なレポートも短期間で容易に開発することができた」と話す。

また奥山氏は、「開発を管理していく立場からは、画面設計などに比べ、帳票出力は最も時間のかかる仕組みであり、これを簡素化するためにもSVFは非常に有効だった。利用者からのフィードバックにも柔軟かつ迅速に対応できるのもSVFの導入効果のひとつだ」と話している。

社内分析用の帳票類は、これまで紙に印刷して社内に保管してきた。しかしSVF採用後はPDFに出力し、電子データとして保管することで、紙資源と保管コストを削減することも可能になったという。

奥山氏は、「電子データで保管することで、検索なども容易になり、業務効率も大幅に向上することができた」と話している。

グループ3社のシステム統合 帳票基盤としてSVFに期待

今後の展開について奥山氏は、「グループ会社全体のシステムの帳票基盤としてSVFを活用していきたいと考えている。当初は開発の効率性に目が向いてしまうが、効率性を追求するためには標準化が必要。そこで、帳票出力はSVFで統一することで、開発効率はもちろん、業務効率もさらに向上が期待できる」と話す。

リスクモンスターでは、RM2 Navi Systemの管理ツールを中核に、グループ会社全体の帳票基盤としてSVFを適用する計画だ。

奥山氏は、「たとえば、課金システムはグループ全体で共通化することが必須と考えている。他のASPサービスでも共通プラットフォームとしてSVFを活用できる仕組みを開発し、これを全社に適用していきたいと考えている」とSVFに対する今後の期待を話している。

導入製品

Super Visual Formade (SVF)

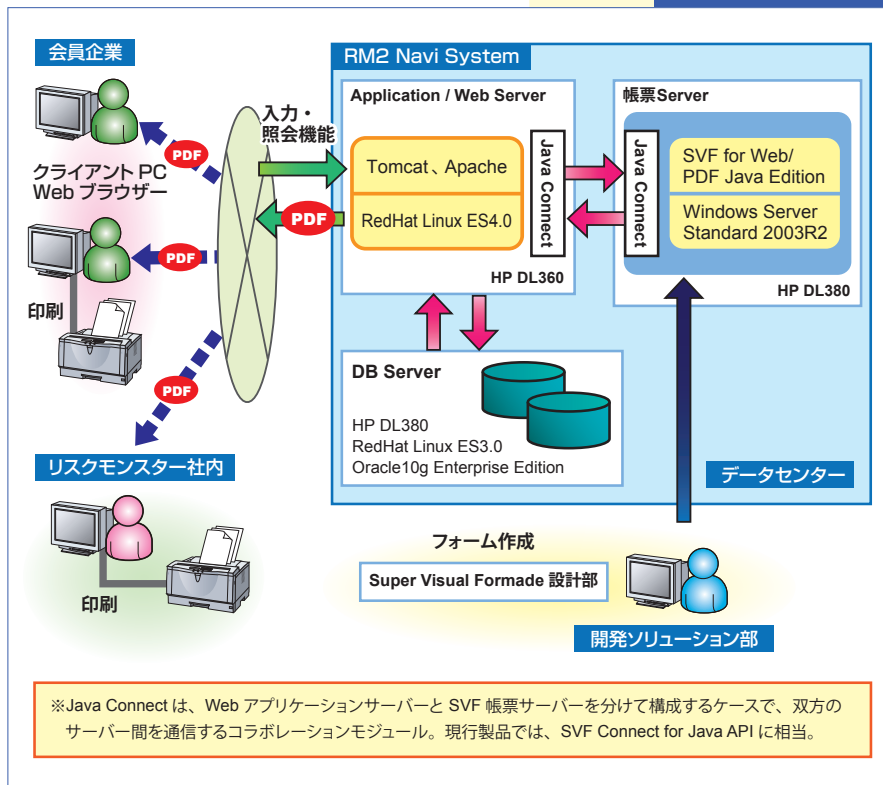
膨大な帳票開発の効率化と多様な出力要件に応えるための、帳票開発支援ツール

SVF for Web/PDF Java Edition (※)

ブラウザからの要求により、アプリケーションサーバー上でサブレットを起動し、サーバー上の指定フォルダにPDFを生成するツール

※ 現行製品のSVF for PDFに相当。

システム構成



ウイングアーク1st株式会社

www.wingarc.com

E-mail: tsales@wingarc.com

【本社】TEL: 03-5962-7300 【大阪】TEL: 06-6225-7481 【名古屋】TEL: 052-562-5300

【福岡】TEL: 092-292-1092 【仙台】TEL: 022-217-8081 【札幌】TEL: 011-708-8123 【新潟】TEL: 025-241-3108



本リーフレットに掲載した会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。掲載内容は2008年9月現在のものです。

CA0122C1702